

## Ⅳ 研究のまとめ

今年度は、研究主題「子どもの道徳的実践力を高める道徳教育の充実」の3年次として、「道徳科」についておさえておきたいことをまとめてきました。また、胆振管内の各小中学校で行われている実践事例を収集し、研究を進めてきました。

3年間の成果と課題には、以下のような点が挙げられます。

### 成果

- 道徳の教科化に向けた教育課程の編成について示すことができた。
- 道徳科のキーワードを中心にまとめることができた。
- 道徳の教科化に向け、指導過程や発問例などの授業づくりについて示すことができた。
- 「道徳科」の評価についての考え方を示すことができた。
- 各校の実践事例を紹介することができた。

### 課題

- 「道徳科」の評価についての具体を示すことができなかった。
- 「主体的な学び」、「対話的な学び」や「深い学び」という視点からの情報が不十分だった。

平成30年度、31年度の「道徳科」の実施に向け、十分に答えられていない部分もありましたが、少しでも道徳科の授業の参考になる資料になったのではないかと思います。指導案等の情報提供をいただいた、実践校、委託校の先生方に感謝申し上げます。

今年度で3年計画が終了しますが、次年度以降も胆振管内の先生方に「道徳科」についての情報提供をしていきたいと思っております。

## ◆ 参考文献、資料一覧

- ・小学校学習指導要領「特別の教科 道徳編」(文部科学省)
- ・中学校学習指導要領「特別の教科 道徳編」(文部科学省)
- ・小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」(文部科学省)
- ・中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」(文部科学省)
- ・「道徳教育の充実に向けて」北海道教育庁学校教育局義務教育課
- ・北海道教育委員会 Web ページ 「◆道徳の授業づくりについて」
- ・「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)  
平成28年7月22日道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議
- ・道徳教育2017 7月号・10月号 (明治図書)
- ・「道徳科」評価の考え方・進め方(永田繁雄編集 教育開発研究所)
- ・「特別の教科道徳」で大切なこと(赤堀博行著 東洋館出版社)
- ・これからの道徳教育と「道徳科」の展望(赤堀 博行(著、監修、編集) 東洋館出版社)

## ◆ 研究・執筆

役職名	氏名	所属学校	職名
所 長	安 宅 錦 也	登別市立富岸小学校	校 長
副 所 長	高 島 康 範	伊達市立伊達中学校	校 長
事務局長	宮 村 直 人	伊達市立伊達小学校	主幹教諭
事務局次長	高 橋 賢 治	登別市立富岸小学校	主幹教諭
所 員	岡 元 優	登別市立緑陽中学校	主幹教諭
所 員	村 井 淳 一	伊達市立伊達中学校	主幹教諭
所 員	牛 島 夏 陽	伊達市立東小学校	教 諭
所 員	齋 藤 翼	白老町立白老小学校	教 諭
所 員	増 永 真 衣	伊達市立光陵中学校	教 諭
所 員	西 多 俊	登別市立鷺別小学校	教 諭
事務職員	水 留 恵美子	胆振教育研究所	

## あとがき

以前、先輩教師から、「進歩とは変わること。変わる勇気をもて。」という言葉が言われたことがあります。今、まさに自分自身の考え方を改め「道徳科」の完全実施に向け、授業改善に励まなければならないと感じました。次期学習指導要領改定にあたって、道徳の教科化は、子どもの「豊かな心」を養うことにつながる大きな変化の一つです。従来どおり進めていくことは、とても楽なことかもしれませんが、勇気をもって、新しい感覚を取り入れ、日々の実践を積み重ねていくことによって、道徳教育の進歩につながるのではと考えました。

今年度、本教育研究所では、3年計画の3年目として、道徳の教科化のまとめとして、「道徳科」の授業を行うために教育課程の編成から具体的な授業の実践までを順を追ってまとめました。特に、授業実践では内容項目ごとの各学校で実践されている授業の指導案を掲載しました。本研究を通して、道徳の教科化、変わるための「そなえ」ができたと思います。

今回、本教育研究所の研究のために貴重なすばらしい実践を数多く提供していただき、感謝申し上げます。提供いただいた実践を広く管内に情報発信できるよう精一杯努めて参りますので、この紀要が日常の教育現場でご活用いただければ幸いです。

次年度は、また新たな研究主題のもと、研究を進め、胆振管内の具体的な取組や実践事例などの情報発信をしていきたいと考えております。今後とも、本教育研究所に対するご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

担当所員 齋藤 翼

平成29年度 研究紀要223号

【研究主題】

子どもの道徳的実践力を高める道徳教育の充実

～道徳科を要とした取組を通して～ 3年次

発行年月日 平成30年 2月 28日

発行 胆振教育研究所

代表者 所長 安宅 錦也

印刷 (有)デザインワーク・エージ